

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1A、2B	社会的養護 I ★	竹中 直	
サブタイトル	子どもを育てる社会の責任を考える	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>本科目では、社会的養護の理念や体系を理解し、その歴史的背景を踏まえながら、以下の点について理解することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設で働く保育士の社会的役割 2. 入所型児童福祉施設における援助 3. 保育専門職としての専門性及び倫理と責務 			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の日本における社会的養護の実態を理解し、問題意識を持って考察する能力を身につける。 2. 施設養護の基本理念を理解し、保育専門職に求められる専門性と実践力を身につける。 3. 利用者本位の考え方に立ち、保育専門職に求められる倫理と責務を身につける。 			
授 業 の 方 法			
<p>講義やディスカッションを通じて、施設での養護の在り方を論ずるだけでなく、子どもの権利擁護としての社会的養護の在り方を学生一人ひとりが主体的に考えていく授業を行う。そのため、授業で学んだ内容がどのように実践で役立つかを常にレポート等で確認していく。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『社会的養護と障害児保育』 全国社会福祉協議会 2019年 教材：必要に応じてプリントを配付する 参考図書：『保育福祉小六法』 保育福祉小六法委員会編 みらい 2019年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
<p>定期試験が評価の中心であるが、随時実施するレポート課題やグループワークにおける貢献度などを踏まえて総合的に評価する。</p>		定期試験	60%
		レポート	30%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>本科目は施設実習の事前学習として必要な内容を多く含んでいるので、問題意識をもって授業に臨んで欲しい。</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	[社会的養護とは何か] 社会的養護の概念と現状について理解する	「社会的養護」という概念を理解する
2回	[社会的養護の制度と実施体制] 児童福祉施設について理解する	児童福祉施設を理解する
3回	[社会的養護の体系] 施設養護と家庭養護からなる社会的養護の体系を理解する	社会福祉の体系を理解する
4回	[家庭養護] 里親制度・養子縁組制度について理解する	家庭養護の制度を理解する
5回	[ノーマライゼーション] ノーマライゼーションの理念とその影響について理解する	ノーマライゼーションの理念を理解する
6回	[子どもの権利擁護と社会的養護] 施設内虐待の事例をとりあげ、グループディスカッションをする	社会福祉の現状を理解する
7回	[脱施設化・施設の社会化] 望ましい福祉施設の在り方について考える	施設改革の視点を理解する
8回	[ケーススタディ1] わが子の障害受容に悩む母親への援助事例について考察する	児童福祉の実践を理解する
9回	[ケーススタディ2] 軽度の発達障害を持つ被虐待児に対する援助事例について考察する	児童福祉の実践を理解する
10回	[施設養護の基本原則] 児童福祉施設で生活する子どもを理解し、援助の視点を考える	児童福祉の理念を理解する
11回	[救貧制度とその思想] 中世ヨーロッパ(エリザベス救貧法・マルサス「人口論」・劣等処遇) 日本(恤救規則・救護法・先駆者の取り組み)	ヨーロッパと日本の社会福祉の歴史を理解する
12回	[こどもの貧困] 子どもの貧困について現状と課題を考える	子どもの貧困について理解する
13回	[専門職としての資質] 専門職としての倫理、子どもの人権擁護、自己覚知の大切さを理解する	専門職としての自覚と倫理観を理解する
14回	[社会的養護の課題と展望] 子ども家庭と社会的養護の現状と課題を考える	これからの社会的養護の在り方を理解する
試験	定期試験	